

「2020年7月豪雨 緊急支援募金」 支援団体事業報告書（中間報告）

団体名 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

代表者名 代表理事 大西健丞

<p>①事業の目的</p>	<p>2020年7月豪雨で大きな被害を受けた熊本県の球磨川流域を中心に、行方不明者等の捜索・救助、医療支援、避難所等への物資支援などの活動を通じて、被災者の生命と安全を守り、生活再建と地域の復興をサポートする。</p>
<p>②助成金の使途と成果、特筆事項等</p>	<p>【初動期の活動】</p> <p>①捜索・救助活動 被害が発生した7月4日夜に現地入りし、熊本県芦北町や津奈木町で災害救助犬による行方不明者の捜索を行った。7月11日には、球磨村の孤立集落に取り残されていた住民17人と犬・猫を救助し、ヘリコプターで避難所まで搬送した。</p> <p>②医療支援 7月4日夜、避難所となった球磨村総合運動公園に医師・看護師が入り、水没した特別養護老人ホームから搬送されてきた被災者を診察。翌5日以降も、球磨村内の避難所や孤立集落などで、高齢者や投薬が必要な人を中心に診察を続け、計130人以上に適切な緊急医療を提供することができた。村の職員や保健師と協力し、避難所の感染症対策や衛生環境の改善にも取り組んだ。</p> <p>③避難所開設・運営支援 球磨村の被災者の受け入れ先として、人吉第一中学校（人吉市）、旧多良木高校（多良木町）での避難所の開設と運営体制づくりを、別の医療支援団体スタッフらとともにサポートした。間仕切りや段ボールベッドを設置し、看護師らが新型コロナウイルスなどの感染症対策をふまえたゾーニングと導線の整理についてアドバイスした。物資の整理・管理方法についても助言した。</p> <p>④物資支援 球磨村や人吉市などの避難所で、タオル、飲食料、ウレタンマット、肌着、紙おむつ、ボディソープなどを配布した。球磨村内の孤立集落にある高齢者世帯へも、地元住民と協力し、紙おむつやウェットシート、水、野菜ジュース、米などの飲食料を約2日分届けた。</p> <p>【8月以降の活動】 球磨川沿いの八代市坂本地区で土砂・流木の撤去などの活動をしている地元団体に対し、作業に必要な電動工具などの資機材を提供し、被災地の復旧作業を効率的に進められるようにサポートした。これにより、被災家屋へのアクセスを確保し、住民や一般のボランティアが泥出しや清掃などに従事できる環境を整えた。また、熊本県内の社会福祉協議会や民間支援団体を通じ、スタッフやボランティア向けの水・パックおかゆ（企業からの無償提供品）、Tシャツなどの物資を提供した。今後も現地のニーズに柔軟に対応し、物資支援をはじめとする活動を続ける予定。</p>